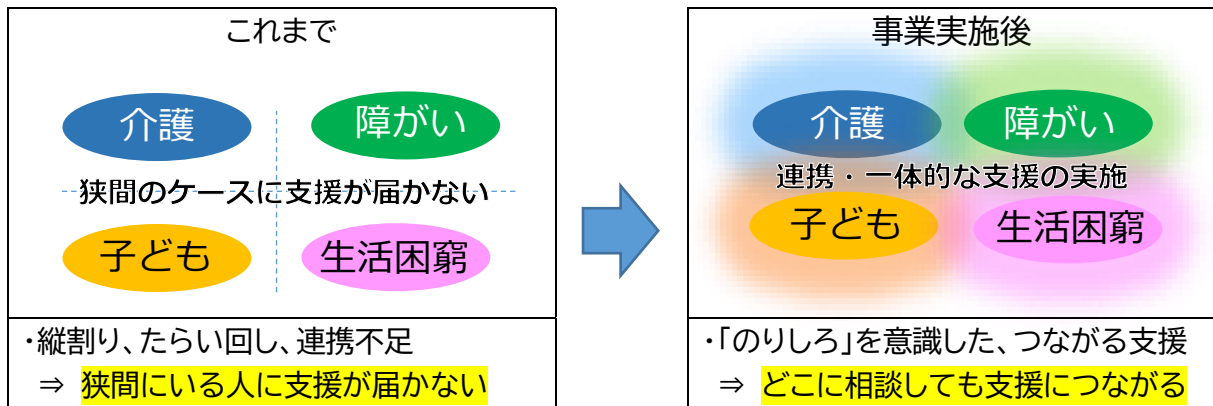


# 柏崎市重層的支援体制整備事業の概要

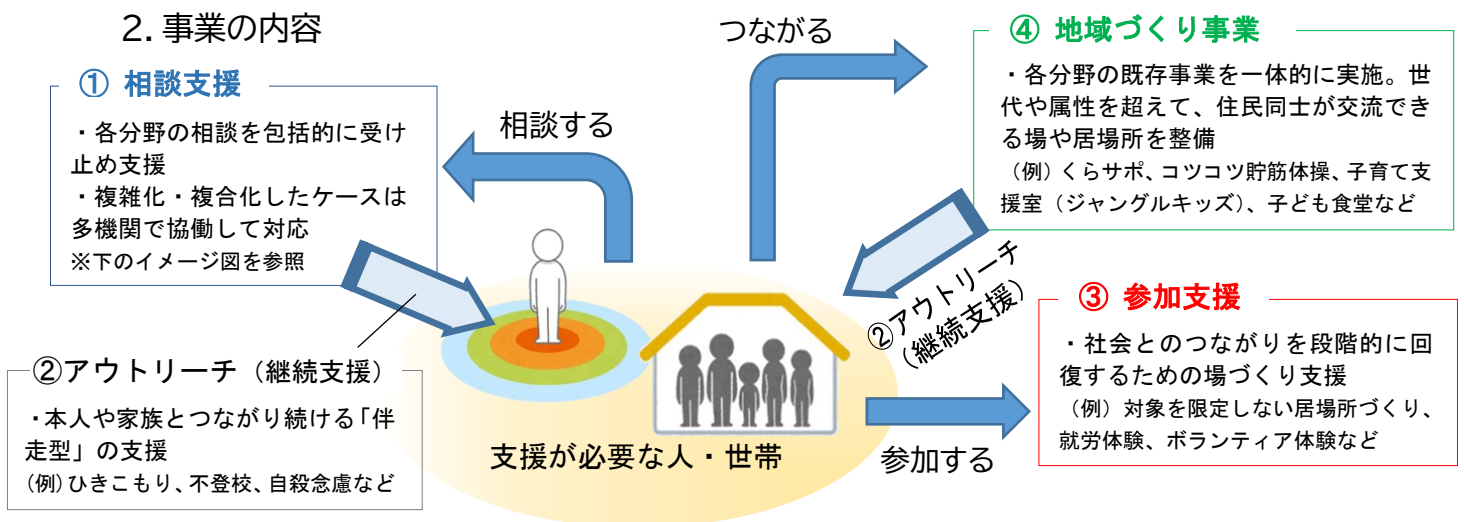
## 1. 事業が目指すもの



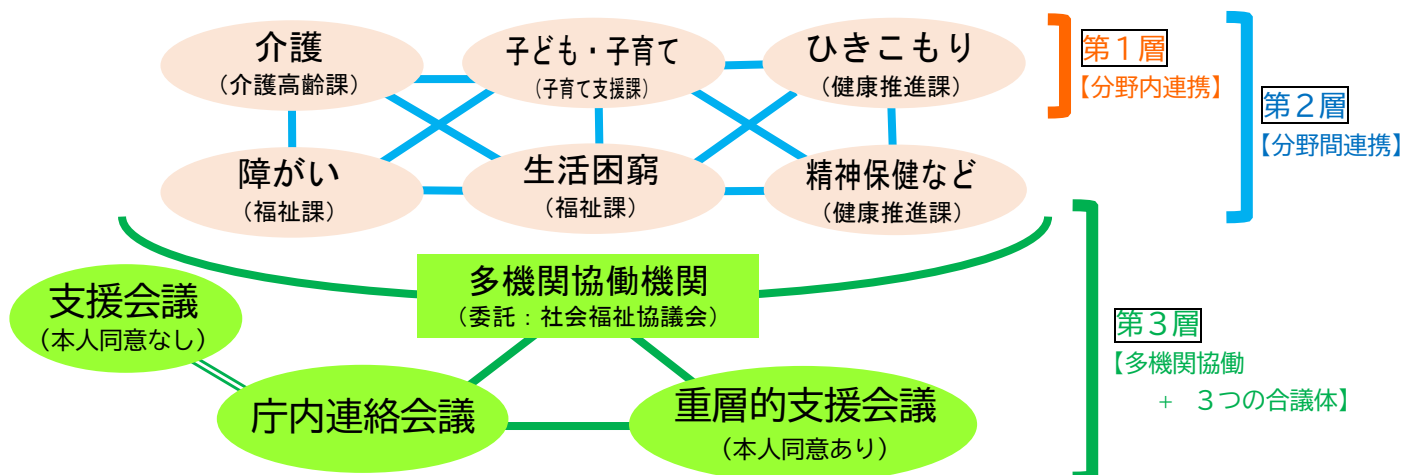
### 【事業実施による効果(例)】

- A 高齢の親とひきこもりの子の世帯(8050世帯)で、支援者間の情報連携が課題となっているケース。情報共有と役割分担の再構築で、チームでの支援が始まり、連携がスムーズに！  
 →チーム支援による連携強化
- B 不登校の子を抱える親が悩みを打ち明ける居場所が少ない。高齢者向けサロンの対象を広げ、誰でも参加できる空間に。多世代交流をきっかけに気持ちが前向きになり、不登校が解消。親は、その後もサロンのスタッフとして活動し、同じ悩みを持つ親の支援に携わる。  
 →交流を通じた支え合い+地域力の強化

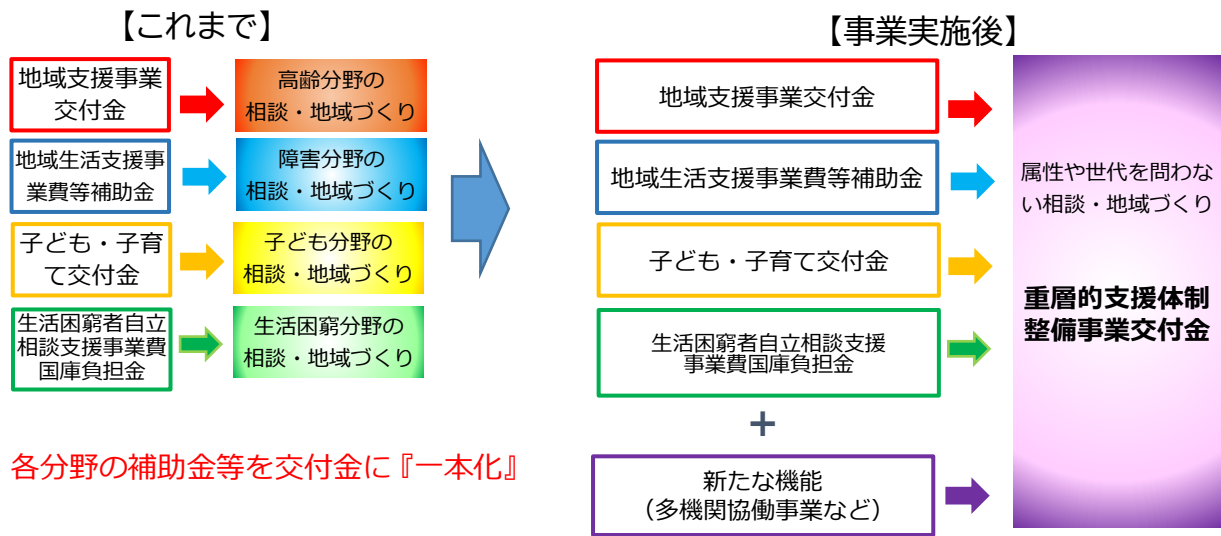
## 2. 事業の内容



### 【相談支援体制(イメージ)】



### 3. 交付金の活用



事業費 (R6 予算)

(千円)

	予算額	国費	県費	市費 (介護保険料を含む)
事業費合計	344,919	132,131 (38.3%)	66,442 (19.3%)	146,346 (42.4%)
活用しない場合(概算)	344,919	118,403	59,579	166,937
差額	—	+13,728	+6,863	▲20,591

➡ 交付金の活用により、市費負担が減少する (約 2,000 万円)

### 4. 移行準備事業の経過(2年間)

R4 (2022)	【課題の整理】 ・市内 17 の相談支援機関にヒアリング調査を実施 → 他機関の動きが見えにくい。支援者同士が交流、相談できる場が必要
R5 (2023)	【体制の検討】 ・相談支援担当課で組織する定例会議を毎月開催し、支援者が抱える課題や対応困難なケースを踏まえて、本市における相談支援体制について検討

(参考) 県内他市の取組状況 (令和 5 年度)

- ・本実施\_なし
- ・移行準備事業\_6 自治体 (新潟、三条、柏崎、見附、村上、関川) ※下線は R6~本実施

### 5. 令和 6(2024)年度以降の予定

年度	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)
展開のイメージ	周知・体制整備 (立ち上げ期)		活用・拡大 (発展期)			充実 (確立期)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の周知</li> <li>・協議、共有の場の定着</li> <li>・社会資源や支援ニーズの把握 等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・場づくり (直営)</li> <li>・場づくり支援 (地域主体)</li> <li>・新たな社会資源の開発</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ支援員の育成</li> <li>・支援ニーズと地域をつなぐコーディネーターの配置 等</li> </ul>	